



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 9 R6. 08. 01

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

あなたは時間を見たか？ —持ち時間をイメージする—

夏休みの4分の1が過ぎた。補習や全国インターハイの手伝いなどで休み気分ではない1・2年生もいるかもしれないが、時は刻々と過ぎていく。3年生は順調だろうか。

夏休みにすべきこと、やりたいことは多いだろう。スケジューリングがたいへんだ。



スケジューリングとは持ち時間に自分のやるべきことを割り振っていくこと。短い時間の場合は比較的容易だが、数週間、数か月にまたがる時間はイメージするのが難しい。

そこで今、8時として午後1時半過ぎに何か大事な約束があるとすると、左に示したとおりだ。すると残りの時間が直感的に理解できるのではないか。

これは月時計という考え方で、月日の流れを時計の針に当てはめてみたものだ。1年間も1日もどちらも十二進法なので置き換えが可能。短針は12時間で12か月に対応し、長針は1日2分ずつ進めれば30日間で一回り、つまり1か月を意味する。

今日は8月1日、時計で表すと8時。1時36分は1月18日を表している。3年生が重要と位置付ける大学入学共通テストのある日が時計でいうと1時36分というわけだ。

大事な約束が午後1時半にある。絶対にしくじることができない用事。そこで最高のパフォーマンスを見せなければならない。今は8時。午後一番の約束の時間に向けてこれからの時間をどう準備を進めるか…。

武陵祭が行われる9月は月時計でいうと9時。模試に明け暮れる10時、11時、12時を過ぎると寒さが増してくる。その頃は一分一秒がドキドキだろう。

月時計のイメージを持つと時間が面積で意識される。焦りを焚き付けるわけではないが、残された時間は決して多くはないことを意識して欲しい。

躍動 少林寺拳法部！ —堂々の全国2位！—

7月26日から28日、佐賀プラザで開催された全国高校総体で少林寺拳法部が堂々の全国入賞を果たした。男子単独演武で原紳太郎さん(2年)、女子組演武で金丸実結さん(3年)・田口紗恵さん(3年)組、男子団体(鈴木、松尾、安田、藤川、原、福田、曾田、辻)、



女子団体(金丸、田口、川副、原、山口樹、山口聖、中島、高森)の4部門全てで全国2位の快挙。

疲労やけがで満身創痍の中、地元開催の追い風を受け、全力を出し切った。男子単独演武の原さんは優勝者と同点。わずかな内訳点数の差で序列がついた。実質優勝と同じ。

九州大会の結果や地元インターハイのプレッシャーもあっただろう中、素晴らしい活躍だった。また本校からもたくさんの補助員が大会運営を支えた。皆さん、ご苦労様でした！

多趣味であれ！ —引き出しの多さは発想の広さ—

ノーベル賞を受賞した科学者と一般の科学者とで芸術を趣味にしている割合を比較した研究がある。ノーベル賞受賞者が一般の科学者の2倍の比率で音楽を趣味にしていた。絵画や彫刻・版画では7倍。演劇やダンスなどのパフォーマンスでは22倍だそうだ。ここでの結論は「ノーベル賞受賞者には多趣味な人が多い」。(日経新聞6月30日)



STEM教育という言葉がある。Science、Technology、Engineering、Mathematicsの各分野の教育が大事だ。そこにAが加わりSTEAM教育というふうに言われている。AとはArt。

東京芸術大学の日比野克彦学長は「アートの根源には喜怒哀楽や情緒、感極まって声が出る、踊り出すといった気持ちの塊がある」「アートの根源にあるのはエネルギーでテクニックではない」と言っている。(日経新聞7月25日夕刊)

大学入試では課された試験科目の比重に違いがあり、その効率的な対策の視点から高校では文系と理系という時間割の組み方をしているが大なり小なりSTEM教育は誰にでも必要なのだし、その根幹にAがあるのだと理解できる。ジブンゴトとして捉えてほしい。

人生は長い。青春はパワフルな時代だ。大いに趣味や関心の領域を広げてほしい。その中から自分の進むべき道、自分が一番自分らしいと思える分野にきっと気づくだろう。

夏は“探究”の季節！

佐賀市内の公民館で開催された外国籍の子どもたちを集めたイベントに本校の生徒が探究活動の一環で参加した。関係分野の先生をたどりたどって行き着いたイベント。取材させていただいた方の講演紹介など意欲的に参画した。まさに体験的活動が進んでいる。



探究とは自ら課題を見つけ、情報収集・整理分析し、自分の考えをまとめていく学習方法。この過程で最も大事なものは「情報収集」。新しいアイデアが月並みだったり、単なる思いつきに留まったりするのは「情報収集が甘かったね」ということ。情報収集を重ねながら「課題設定」も練り上げられる。フィールドワークは情報収集の基礎資料として貴重な。

予測困難な時代を生きていくためにはゼロから1を生み出す創造力が求められる。とはいえ、無から1はなかなか生まれにくい。これまでの新しい技術や価値観は既成のもの同士の意外な組み合わせであることが多い。だからこそ情報収集で引き出しを作る必要がある。

東京都渋谷区の公立小・中学校は午後の時間を全て探究(総合的な学習の時間)に当てたそうだ。武雄高校では各教科の学びも探究の一環と位置付けている。いずれにせよ、探究のスタイルを繰り返し経験し、体得していくしかない。暑いけど、燃えよ！探究！

(閑人閑話)全国インターハイが開催中。本校からも選手や補助員として参加中。▼少林寺拳法の活躍は上述のとおり。頑張った選手たちに拍手を送りたい。おめでとう。▼そして補助員として大会運営を支えてくれた生徒の皆さんにもお礼を言いたい。本当にお疲れ様。全国の役員の方や他県の選手の方から「佐賀の補助員さんたちは素晴らしい」とお褒めをいただき、鼻が高かった。▼大会愛称は「ありがとうを強さに変えて北部九州総体」。支えられる者と支えられる者が一体となって大会を作り上げる。こうした考え方はコロナ禍で強く学んできた。▼加えて大会スローガンは「駆け上がれ夢の舞台へ燃え上げ若人の魂」。こちらは永遠のテーマ。いわゆる青春の普遍性を表している。いつの時代にも若者が持つ特権だ。▼今年の夏も熱い。それぞれの立場で、それぞれの青春に向かって自己ベストを尽くしてほしい。(昌)

【当面の主な予定(8月前半)】

- 1日(木)前期補習(1~3年)
- 2日(金)中期補習(3年、7日まで)
バドミントン競技補助
体験入学
- 8日(木)学校閉庁日(16日まで)
- 10日(土)3年合同学習会(11日まで)